

(第1会場：4F大研修室)

## 午後

■司会 小山 将範 島根県教育委員会東部教育事務所 社会教育係長  
永楽 悦子 大分県教育庁生涯学習課 社会教育主事

## 1. 「学社融合」戦略の研究と地域のゲストティーチャーによる学校支援の実践的研修

— 佐賀県における「学校と地域の融合研究会」の取り組み —

13:30~13:55

江口 浩文〈佐賀県〉 佐賀市立本庄小学校 教諭

研究主体は「学校と地域の融合研究会」である。平成12年度の発足以来、定期的な研修会を開催している。目的は学社の融合を通して、生涯学習の推進と学校開放の推進を進めることである。研究はあくまで実践を想定してゲストティーチャーの招聘・実演を取り入れ、具体的な企画の提案を想定している。

2. <sup>はたがさこ</sup> 畑迫「ほたる祭」と「総合的学習」の融合

— 地域の願いと学校の思いを通わせて —

13:55~14:20

澤江 健〈島根県〉 津和野町立畑迫小学校 教諭

「ほたる祭り」は地域の祭りであったが、「総合的学習」と融合することによって学校の祭りともなった。ふるさとを愛する児童の育成と地域の活性化目標を繋ぐことによって、地域の願いと学校の思いが通い合っただけでなく、具体化した事業である。祭りは子どもたちの活躍の場であり、同時に学習の発表の場ともなった。地域の大人たちも子どもたちの活動にふれ、地域で育むという視点が具体化した。それは当然、教職員の意識にも反映している。

～ティータイム～

14:20~14:55

## 3. 「協働」生活体験学習の成果と課題

— 地域における「協働」理念の浸透 —

14:55~15:20

久保田博樹〈福岡県〉 高田町江ノ浦校区「協働」生活体験学習実行委員会 平成13年度実行委員長  
野田圭一郎〈福岡県〉 高田町江ノ浦校区「協働」生活体験学習実行委員会 平成14年度実行委員長

「協働」生活体験学習とは、希望した5~7名程度の異年齢の子供たちが、地区の自治公民館などで数日間寝食をともにしながら、学校に通ういわゆる通学合宿である。原則は子供たちの自治。保護者は2名程度が交代で泊り込む。目は話さないが、手は離す。通学合宿の基本は「失敗は教育効果をあげる」である。

## 4. 地域の身近な畑を生かした小学校農業体験学習

— 内田小ヤッホー農園活動 —

15:20~15:45

横田 明子〈熊本県〉 菊鹿町立内田小学校 前校長

農業体験学習には年間35時間の教育活動をあてている。対象は全学年児童、活動の場所は9つの行政区にそれぞれ確保した農園や公民館分館等をあてている。3年生以上は総合的学習、1、2年生は生活科の時間として位置づけている。畑が地域と学校を結ぶ交流の場となり、子どもたちも主体性が育ち、地域の活性化にも繋がっている。

## 5. 総括討論

15:45~16:15